

いと考えています。

大山町しごと・ひと・くらし創生総合戦略外部検証委員（敬称略）

団体名	氏名	備考
大山町企業連絡会会長	片木 威	産業
大山町商工会長	岸本 耕二	産業・広域推薦
西部総合事務所コンシェルジュ	小西 耕一	官
鳥取大学 地域学部 教授	多田憲一郎	教育
鳥取銀行名和支店長	木村 圭介	金融
山陰合同銀行名和支店長	今出 正	金融
大山町職員労働組合	生田 貴史	労働
新日本海新聞社 編集局長	沢田圭太郎	報道
アマゾンラテルナ鳥取大山 オフィスゼネラルマネジャー	貝本 正紀	報道
女性団体連絡会副会長	荒金恵美子	住民
大山女性の会会長	桑原可菜子	住民

◆問い合わせ先

企画情報課

☎0859・54・5202

事業名	目的	成果（実績）	検証委員の主な意見
空き家発掘推進事業	大山町の財産（空き家）を新たな価値とし、利活用を推進する。	地域自主組織（逢坂、御来屋、下中山）の協力のもと、空き家発掘を行った。	・空き家の持ち主は貸す相手がわからないので不安に思っている。貸す側の不安解消をもっと広報すればよい。（移住定住サテライトセンターの役割など。） ・持ち主への安心感担保のため、行政が購入（賃貸）という取り組みができないか。
鳥取大学連携事業	①認知症に対し、民間事業者や大学と連携することで、早期発見・治療につなげる。 ②鳥取大学との連携により、町の行政事業成果等の検証を行う。	①訪問件数20件。対象者の状況に適した受診や介護申請につなげることができた。 ②学生5名が町内に滞在し、地方創生事業（新たな価値創造事業）の評価を行った。	・認知症の方への訪問は、出かけることができない人にとって有効である。 ・将来的な効果として、大学生の県内や町内就職に期待する。
ふるさとフォーラムなかやま魅力向上事業	地域住民と協働して大山町東側の滞在拠点としての魅力を向上させていく。	町営日帰り温泉施設、グラウンドゴルフ場という拠点を利用し、町内周遊と滞在時間向上に寄与した。	・魅力をどんどん発信してほしい。
採算性調査事業	大山参道における新商業複合施設によるにぎわい創出の可能性について、調査分析を行う。	調査分析が行われた。 （株）山陰経済経営研究所	・実態を知ることができたのではないか。 ・調査結果ではあまり良い結果がでていないが、もしだめなら次のステップを考えないといけない。 ・大山開山1300年を契機に、観光客を呼び込む戦略が必要である。

事業全体に対しての主な意見

- ◆次年度は事業を行った部署にオブザーバーとして参加してほしい。
- ◆全体的に大山町の補助事業がわかりにくい。一覧で見ることができないか。
- ◆経済効果を出して検証に結びつけることはできないか。
- ◆担当課の分析が甘い気がする。5段階評価をすればわかりやすい。何が足らなかったか、努力するところはどこなのか、きびしく評価してほしい。